

## 第6章 効率化・経営健全化の取組

---

### 1 農業集落排水施設の適正化

人口減少などにより将来の使用料の減少が見込まれる中で健全な運営を維持していくため、施設や管路更新時にはダウンサイジングについて検討し、将来的に必要な処理水量に見合う規模の施設へと更新していきます。なお、ダウンサイジングを実施することにより、施設の更新費用の削減が見込まれます。

### 2 農業集落排水施設の適切な維持管理

日常の維持管理及び保守点検を適切に実施することにより、予防保全に取り組みます。また、突発的な事故や費用の発生リスクを軽減できるように、施設・設備の状況を日常的に把握していきます。これらを行うことにより、施設のさらなる延命化を図ることが可能となり、更新費用の削減が見込まれます。

### 3 農業集落排水施設の適切な更新

老朽化した管路については、延命化を図りつつも適切な時期に更新を行い、有収率を向上させることにより、収益性の改善に取り組みます。さらに、3～5年毎に投資計画を見直し、施設の適切な更新を進めていきます。

### 4 広域化や民間活用について

令和元年度に公共下水道事業で実施した広域化・共同化検討業務において、鬼怒川への水管橋の整備などが必要なため、経済合理性から公共下水道事業との統合は厳しいとの結果となったことから、広域化による経営の見直しは当面ありません。都市計画道路供平板戸井線の整備のタイミングで、新橋が整備されるときには、公共下水道との統合を積極的に推進します。

民間活用については、現在実施している施設の包括管理委託業務や料金徴収業務を引き続き実施するとともに、新たな技術・ノウハウを活かした官民の連携について検討を進めていきます。

### 5 農業集落排水施設使用料の適正化の検討

現在の収支計画では、計画期間内においては収支均衡となる見込みとなっています。計画期間以降も現在のところ資金不足にはならない見込みですが、投資計画の拡充を含めた将来見通しを踏まえつつ、農業集落排水事業の継続と健全な経営の維持が可能となるように、更なる経営の合理化に努めつつ、今後の農業集落排水施設使用料の適正化について検討していきます。